

ピロ



第22回広尾町農村運動会……………	2～3
第44回十勝総合家畜共進会(肉用牛の部) …	4
技能実習生とトラブルを防ぐために……………	5
平成25年度第1回地区別学習会 広尾町でTPP交渉参加に反対する大集会 ……………	6
TPP交渉参加に抗議する総決起大会	
JAひろお年金友の会親睦旅行……………	7

十勝地区JA女性部長視察研修……………	8
町議会議員(株)ピラオロ視察 不法投棄合同パトロール行われる……………	9
小麦収穫終わる 森田牧場で農業体験！ 理事会……………	10
表紙インタビュー・占い……………	11
背表紙……………	12



7月27日、第22回広尾町農村運動会が豊似小学校グラウンドで開催されました。天候にも恵まれ、たくさんの方々にご参加いただきました。

J Aひろお青年部 岡田部長の開会宣言の後、萬亀山組合長の開会挨拶、広尾町副町長 野田充利氏、十勝農業共済組合組合長理事 岡田恒博氏よりご祝辞をいただきました。

新生チームの菊地亮太さん、菊地亜希さんの選手宣誓の後、参加者全員でラジオ体操を行い、競技に移りました。

個人・団体合わせて8種目の競技が行われ、どの競技も大いに盛り上がり、特に「協同の力（綱引き）」と「地区対抗リレー」では、参加者から力のこもったかけ声があがり、応援席からも熱い声援が送られていました。

各チームの実力が拮抗する中、昨年に引き続き今年も紋別チームが優勝し、6連覇を達成しました。運動会終了後は、親睦交流会が行われ、運動会名物の肉牛部会による牛の丸焼きに舌鼓を打ち、また各種ゲームで盛り上がり参加者全員が、日頃の疲れを癒し楽しむことができた1日となりました。



第44回 十勝総合家畜共進会(肉用牛の部)



7月23日～24日、第44回十勝総合畜産共進会(肉用牛の部)が十勝農協連家畜共進会場(音更町)にて開催され、十勝管内から個体97頭、群5組の出品があり、23日測尺審査・栄養度審査、24日審査の日程で行われました。

審査員は、(一社)北海道酪農畜産協会家畜登録改良部長 栗生要氏、(独)家畜改良センター十勝牧場業務第一課長 岡田真人氏の2名が厳正かつ迅速に進めていました。

本JAからは佐藤哲也牧場、(有)北藤ファーム、2戸7頭が出場し、佐藤哲也牧場が第20部・第21部で入賞し、9月14日～15日に安平町で開催される第30回北海道肉用牛共進会への出場権を獲得しました。

全道共進会での活躍を期待します。
なお、各部の成績は次の通りです。

各部成績

第17部(生後10ヶ月以上13ヶ月未満の未経産)	ひろみ号	2等賞2席	佐藤 哲也牧場
第20部(生後15ヶ月以上18ヶ月未満の未経産)	たらちね465号	1等賞4席	佐藤 哲也牧場
第21部(生後18ヶ月以上24ヶ月未満の未経産)	はつかね号	2等賞1席	佐藤 哲也牧場
第21部(生後18ヶ月以上24ヶ月未満の未経産)	ゆりな号	3等賞	(有)北藤ファーム
第22部(生後48ヶ月未満の経産)	じゅんこ号	3等賞	佐藤 哲也牧場
第22部(生後48ヶ月未満の経産)	よしふじ号	3等賞	(有)北藤ファーム
第23部(生後48ヶ月以上の経産)	ひらかつ号	2等賞5席	佐藤 哲也牧場

技能実習生とトラブルを防ぐために

7月25日、JA忠類にて十勝地区中国人研修生受入農家連絡会(十勝農協連・JA忠類・JA鹿追・JAひろお)の現地研修会が行われました。

研修会では、送出機関である湖北新世紀対外経済技術合作有限会社北海道駐在事務所 洪代表より、技能実習制度の仕組みや、多発しているトラブルや傷害事件と、特に今年3月に起きた広島県江田島市の牡蠣養殖加工会社での中国人技能実習生による殺人傷害事件を例に、技能実習生とのトラブルの防止についての講演がありました。

3JAの農家では多くの中国人技能実習生の受入をしており、江田島市の事件は決して「対岸の火事」ではないと研修会に参加されました。

技能実習生とのトラブルは、単に言葉が通じないことで発生するものではなく、最も大きな要因はコミュニケーション不足と考えられ、それぞれの文化の違いや仕事の質・量に対する考え方が根本的に違うことから、コミュニケーションを十分に取っていくことが大切であるとのことでした。

作業中のミスや誤操作は、出来る限りその場で指導し、良いことをした場合もその場で褒めるといふ、厳しさと優しさの使い分けが必要とのことでした。講演会後に行われた懇親会では、お互いに円滑に技能実習制度を進めるために、それぞれの受入農家による情報交換が行われました。

農業振興課では、JA広尾外国人研修生受入農家連絡会と連携し、中国からの技能実習生の受入を行っておりますので受入を検討されている方はご相談下さい。

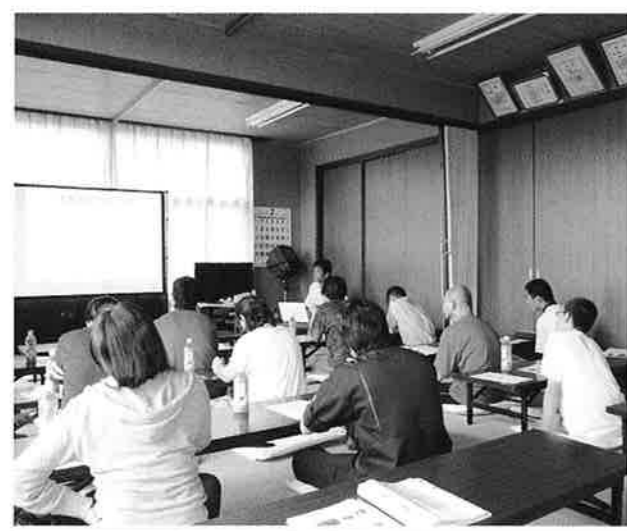


平成25年度 第1回地区別学習会

7月23日より、各行政区研修センターにおいて、町内生産者他合計26名が参加し、十勝農業改良普及センター南部支所 専門普及員 海田佳宏氏が講師を務め、「仔牛の事故を減らそう!」のテーマのもと、学習会が開催されました。

初めに、十勝農協連化成事業所の死亡畜データや、十勝畜産統計調査のデータを基に集計したグラフを参考に、町内における仔牛の月別や生後日齢別の事故状況の説明がありました。平成24年は、生後0日齢未満で622頭の仔牛が何らかの理由で死亡し、町内で飼養されている経産牛(黒毛和牛等含む)約6,400頭に対し、約1割が死亡している事が分かりました。また、月別の仔牛(生後0日～7日齢迄)事故率は、冬期間がもっとも高く、次いで6月から7月にかけてが高くなっていることが分かり、要因として寒さや牧草繁忙期による分娩観察不足や分娩介助が十分であった事が推測されました。

次に、スライドと資料を交えて、仔牛の事故を減らすには実際にどうしたら良いのかについて様々な視点から説明されました。具体的な内容として、抵抗力のある強い仔牛は、乾乳期からの母体管理が重要で、乾乳後期に飼料の食い込みが悪くなると難産発生率が高くなる事から、ボディーコンディションスコアに注意し、太っている牛には、糖蜜給与が有効であるとの説明がありました。また、分娩時の事故を減らすには、分娩させる場所を足回りの良い衛生的な環境に整える事や、分娩の際に良く牛を観察する事が重要で、強引な分娩介助は、仔牛にも母体にも負担が大き



く、牽引する場合は、70kg以上(通常、一人の男性が牽引する場合この程度)の力を使わないように心がけましょうとの事でした。その他にも仔牛に初乳給与をする際における給与タイミングや給与量、初乳を搾乳する際や、冷凍保存する際の注意点が説明され、なかでも興味深い内容として、現在様々な初乳製剤が市販されておりますが、市販されている製品には、仔牛を疾病から守る為に欠かせないIgG(免疫グロブリン)が全く含まれていないものもあるとの事でした。最後に、生まれて間もない仔牛を寒さから守るために有効なカーフウォーマーを町内で実際に使われている事例を基に説明がされ学習会は終了しました。

学習会の資料がありますので、学習会の具体的な内容に興味のある方は営農販売課までお問い合わせ下さい。

広尾町でTPP交渉参加に反対する大集会

7月24日、広尾町コミュニティセンターにおいて、TPP交渉参加に反対する十勝管内統一行動として抗議集



会が行われました。農業関係者や林業、漁業、商工会、各町内会等から約250名が集結し、開会挨拶では広尾町長村瀬優氏より、TPPに参加を表明した国に対し、一次産業と関連産業に大打撃を与える事や、食品の安全、医療、金融、保険、文化などに与える影響の大きさや、ISD条項により国家主権を揺るがす事態になることについて訴えました。萬亀山組合長より意見表明、広尾漁業協同組合組合長 亀田元教氏が決議採択を行い、JAひろお青年部岡田部長の発声により安心して暮らせる地域社会を子供たちへつなぐため頑張ろう三唱を全員で行いました。

TPP交渉参加に抗議する総決起大会

7月24日、TPP交渉参加に抗議する総決起大会が札幌市の中島公園で開催さ



れました。JA北海道中央会など一次産業4団体が主催し、道経済連合会、消費者協会、道医師会など43団体が後援し、約7000人が集結、本JAからも23名が参加しました。開会挨拶では、JA北海道中央会会長 飛田稔章氏は、「北海道は200%の食糧自給率を誇り国民の生活を守る農業地帯の力が発揮出来なくなる」とTPP交渉参加に危機感を強調し、出席した道内選出国會議員に「北海道の経済・農業をしっかりと守っていただきたい」と訴えました。また、知事や道議會議員の激励と、道農民連盟委員長 山田富士雄氏による決議採択「TPP交渉からの即時撤退に向け団結しよう」と呼びかけた道農協青年部協議会会長 黒田榮継氏の頑張ろう三唱、道森林組合連合会副会長 野呂田隆史氏

の挨拶で強力に運動を展開する決意を確認しました。道選出の國會議員も交渉参加に異を唱え、道農業・経済を守りたい考えを示しました。大会後は大通公園までデモ行進を行い、TPP交渉参加への怒りと危機感を訴えました。



JAひろお 年金友の会

親睦旅行

6月23日～25日までの2泊3日の日程で、JAひろお年金友の会の親睦旅行が網走・知床方面で行われ、会員17名が参加しました。

初日は、はじめに今話題の温根湯の「山の水族館」に行きました。ヤマメやオシロコマが世界初の滝壺水槽の中に展示されており、自然に近い環境の中で生き生きと泳ぐ姿を見ることが出来ます。

次に北見ハッカ記念館を見学し、製品が出来るまでの工程や北見のハッカの歴史について知ることができました。

2日目は、午前中に網走市内を観光し、オホーツク流水館では、流水がどのように作られるのかを紹介したり、海の天使と呼ばれるクリオネを展示していました。天気の良い日は展望台から網走市街やオホーツク海を見渡すことができますが、この日は、あいにくの曇り空で、絶景を目にすることは叶いませんでした。

博物館網走監獄を見学した後、バスは知床半島へと向かい、知床観光遊覧船によるクルージングを楽しみました。普段なかなか見ることのできない岩礁やいくつもの滝からなる知床半島の姿は、世界自然遺産にふさわしい神秘的ですばらしいものでした。

3日目は、知床自然センターを見学し、大型スクリーンで上映される断崖絶壁を舞うオジロワシや羅臼岳山頂から知床岬突端までの空撮など知床の四季の美しさを映像を通して感じる事ができました。

ウトロから知床峠を通り羅臼へと向かい、国後島を横目に釧路へとバスを走らせ、和商市場で買い物をして帰路につきました。

道東の雄大な自然に触れると共に話題のスポットを楽しみ、夜は温泉で旅の疲れを癒して、懇親会ではおいしい料理とお酒を頂きながらカラオケで盛り上がる楽しい三日間でした。